

子供の頃からの防災教育の推進

「消防団の充実強化についての検討会」報告書(平成22年12月)

○ 子どもの頃からの防火・防災に関する意識付けを行い、将来の地域防災の担い手を育てる基盤的活動として、少年消防クラブの活動の活性化を進めていく必要がある。

特に、中学生・高校生については、ある程度体力を有していることから、防災活動に積極的に参加し、地域防災力の向上に寄与する主体として活躍していくことが期待される。

○ 青少年への防災教育の推進に当たっては、指導者の確保・養成を推進する必要がある。消防職員や消防団員も積極的に協力することが望まれる。

少年消防クラブ活動の推進

- ・子供たちが災害、防災について学ぶとともに、防災を通して地域と関わりを持つ貴重な機会
- ・小学生、中学生、高校生等が参加
 - －将来の地域防災を担う人材の育成
 - －特に中学生や高校生は、相応の体力を有しており、現時点においても地域の防災活動に積極的に参加することが期待される
- ・4,841団体、約42万人が活動中（平成22年5月1日現在）
- ・優良なクラブ及び指導者の表彰を実施
 - －クラブ員や指導者の意識高揚
 - －クラブ活動の活性化を図る
- ・少年消防クラブ活性化推進会議※では、実践的な活動を取り入れるなど積極的な取組をしようとするモデルクラブを選定。
 - －活動服や訓練資機材等の援助
 - －「少年消防クラブ指導者研修会」の開催
 - －これらのクラブの活動を「少年消防クラブニュース」等で紹介
 - －平成22年度は55クラブを選定、平成23年度も選定予定（現在募集中）



※少年消防クラブ活性化推進会議

・・・全国消防長会、消防庁、文部科学省、
(財)日本防火協会、(財)日本消防協会、
全国市長会、全国町村会などが参画

学校・地域における防災教育の推進

- ・消防庁では平成22年3月、子どもたちが小さいころから防災に興味を持ち、災害時の身の安全の確保、初期消火、応急救護など、発達段階に応じた実践的な防災知識を身につけてもらうことを目的とした指導者用防災教材「チャレンジ！防災48」を作成した。
 - －都道府県・市町村・消防本部などに配布。消防庁HPIにも掲載。
 - －学校、地域などにおいて活用可能
 - －本教材をより有効に活用して頂くため「青少年防災指導者研修」を実施中
- ・平成23年度より、小学校で新学習指導要領に完全移行。自然災害の防止や、関係機関と地域の人々が協力した災害の防止について、より強化が図られる。



チャレンジ！防災48